

試作品作りに徹底的にこだわることで まったく新しい「釣れる」ルアーを開発する

株式会社ジャンプライズ

フィールドで徹底的に鍛え上げられた、
本当に必要とされるルアー製品の開発をおこなっています。

業界の常識を変えるルアーを開発する株式会社ジャンプライズ。その試作品作りにMDX-40A、MDX-50が活躍しています。

業種	ルアー製造
導入部署	開発室
使用目的	ルアー試作
使用CADシステム	SOLIDWORKS等

BEFORE

- 社内で試作品を作ることができなかった
- 試作品のバリエーションをつくることができなかった

AFTER

- 社内で試作品をつくることのできるようになった
- 4台導入で様々なバリエーションを一度に生産することが可能に

MDX-40Aを知ったきっかけ

以前から「自分でルアーを開発したい」と思っていて、ジャンプライズを立ち上げる前からCADの勉強をしていたんです。2011年にCADができるようになったのですが、データができて自分で試作を作ることができなかった。外部の製造先に作ってもらっていたんですね。「自社で作れたらいいな」とずっと思っていたときに「ABS素材だったらRoland DGが良いんじゃないですか?」と、友人から教えてもらったんです。「金属加工するわけではないし、金額もそこまで高くない。ABSを削るなら充分ですよ」というアドバイスでした。

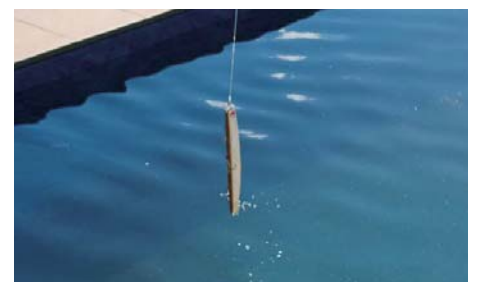
なぜ4台も必要なのか

今はMDX-40Aが3台とMDX-50を1台導入しています。なぜ4台もあるのかというと、良いルアーを開発するにはマシンの台数が必要になるからです。アイデアが閃いて「これ、いけるぞ!」と思ったときに、1台しかなかったら、たくさんの種類を同時に作ることはできません。CADのデータはすぐに作ることができますから、4台あればいろんなバリエーションを同時に作ることができます。ルアーはわずかに形状が違っただけでアクションが大きく変わるので、いろんなバリエーションの試作品を作る必要があります。しかも最終的には、実際に釣りをしてみ

て「釣れるかどうか」をテストするので試作品は1個、2個ではダメなんです。壊れるまで試します。MDX-40Aでたくさんの試作品を作り、自社のプールで基本の動きを確認する。あとは、試作品を持って日本全国を飛び回ります。

驚異的な開発スピード

開発スピードが早いことも弊社の特長だと思います。「こういうルアーが欲しいな」と思ったら、次の日には試作品を作ってプールで泳がし



本社に備えられたプールでアクションを確認する



株式会社ジャンプライズ
代表取締役 井上 友樹 氏

ていますからね。朝に思いついて、夕方泳がしていることもあるくらいです。MDX-40Aならば1本作るのに3時間程度なので、4台をフル稼働したら、3日間で40~50本のサンプルができますからね。

試作品と量産品を 限りなく近づける

お話したように試作品で「魚で答え合わせをすること」が重要なので、試作品と量産品の精度を限りなく近づけることが重要です。そのために、設計上で試作品の内部構造を変えるように工夫しています。CAD上で質量換算ができ



るので、試作品の厚さを加減するんです。そうすることで、実際の量産との差を少なくすることが可能になります。試作品と製品がほぼ同等のアクションをしなければ、マシンを持っている意味がありませんからね。開発者としては、切削加工機でいかに金型と同じアクションを出せるかということが一番の腕の見せ所です。ポイントは、ルアーの中空量。中空量を一緒にすれば、誤差はたかが知れています。MDX-40Aならば、最終製品と変わらない精度で削ることができる。充分な性能を持っています。知らない人が試作品をみたら、これが削り出したものかどうかとは思わないでしょう。

ジャンプライズにしか できないルアーを開発する

現場目線でこれからも開発していきたいと思っていますが、もっともっと上があると思うので、気づいたことをどんどん積み重ねていって「ジャンプライズしかできないよね」というルアーを作り続けていきたいです。それができなかったら意味がない。釣り具業界のことで言えば、もっと盛り上がって切磋琢磨していけばいいと思っています。本当に釣りが好きで、私のような「開発命」みたいな開発者が増えた方が張り合いがあるんです。志を持ったルアー開発者が増えて欲しいですね。



開発室に備えられたMDX-40A



*YouTubeでは、さらに詳しい開発方法が説明されています。「JUMPRIZE ルアー開発秘話」で検索ください。